様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　８ 月 ３０ 日現在

機関番号：３３９１６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ１０５２２

研究課題名（和文）女性医師増加と働き方改革の中で医療の質を維持できる病院人的資源マネジメントの研究

研究課題名（英文）esearch on human resource management in hospitals that can maintain the quality of medical care amid an increase in female doctors and work style reforms

研究代表者
米本　倉基（Yonemoto, Kuramoto）

藤田医科大学・保健学研究科・教授

研究者番号：１０３９００４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は,医療サービスの質の確保の課題を同時解決して,医療の質の低下を招くことなく,医師がワーク・ライフ・バランスが保てる人的資源マネジメントの学びを先行する欧州諸国から成功要因を見出して,日本が導入すべき近未来の女性医師増加と働き方改革に適応したワーク・ライフ・クオリティ・マネジメンモデルを提案をするものである。研究の結果,欧州での病院組織の人的資源管理マネジメントの分析枠踏みとして,インテグラル理論の４つの象限に整理できると考えられ,欧州では第１象限が強く制度普及に影響しているが,日本おいては,第４象限からの拡充が適すると提言した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は2020年度に国内でのアンケート調査に基づく中間的な成果を英文と和文のあわせて3本の論文と3件の学会発表によって公表されている。また,2022年度には,欧州日本人医師会の協力のもとで,欧州で働く10名の日本人女性医師等を対象にオンラインZOOMでの1人あたり1時間程度の聞き取り調査を行い,得られた音声データは,テキストデータとして報告書としてまとめ,論文１本,口頭発表２件として公表されている。さらに,このデータに対して修正版グラウンデット・セオリーアプローチ（M-GTA）で分析を行い、インテグラル理論の4象限で整理し,医療関係の働き方のセミナー等の場で講演等を行い,啓蒙を行っている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to solve the problem of ensuring the quality of medical services at the same time, and to find the success factors from the European countries that precede the learning of human resource management that allows doctors to maintain work-life balance. As a result of the research, it was found that it is appropriate to use the four quadrants of integral theory as an analysis frame for human resource management management of hospital organizations in Europe. We have suggested that in Europe, the first quadrant has a strong influence on the spread of the system, but in Japan, expansion from the fourth quadrant is appropriate.

研究分野：医師のワークライフバランス

キーワード：医師の働き方改革　医師のワークライフバランス　女性医師の就労支援　欧州の医師の働き方

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

医師の女性割合過半数化と働き方改革、特にインターバル制度導入等の加速的環境変化に対する病院組織の人的資源マネジメントは必ずしも十分でない。仮に対応が遅れれば、医療安全や患者経験価値に基づくサービスの質に甚大な影響を与えかねないとの危機感に、この取組みの「問い」がある。我々研究班は過去３年間にわたってオランダの在宅看護組織の現地実態調査(科研費・基盤研究 C)の過程で、高い女性医師割合と短い労働時間という難題を多様な働き方改革による生産性の向上で乗り越えてきたこの国の組織マネジメントの合理性に驚かされた。そして、より詳細なインタビューとアンケートの質的・量的両面から調査を加え、医療の政策・制度・経済・法規・文化・組織・身分・国際化・医学技術に関する我々がこれまで直積してきた複眼的視点から知識をもって、日・蘭の病院組織と医師の働き方を包括的に比較分析することにより、日本が直面するこの複合的課題を同時に解決し、急速に変化する医師の労働環境に適応した新たな病院の人的資源マネジメント策を構築、提案できると考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、医師の女性増加と働き方改革、医療サービスの質の確保の課題を同時解決して、医療の質の低下を招くことなく、より充実した病院組織におけるワーク・ライフ・バランスが保てる人的資源マネジメントの学びを先行する欧州諸国、特にオランダの病院組織と医師の働き方のなかから成功要因を見出し、得られた知見から日本が導入すべき近未来の女性医師増加と働き方改革に適応したワーク・ライフ・クオリティ・マネジメンモデルの構築、提案、啓蒙をするものである。

３．研究の方法

初年度の 2019 年度は関連する文献レビューを順調に終え、2020 年度には欧州現地調査で得られたテキストデータに基づき日本の病院組織の人的資源マネジメントのモデルを構築ためのフィールド・リサーチを欧州日本人医師会の協力によって行うべくアポイントも完了していたが、新型コロナウイルス蔓延の影響で中止せざるを得ず、やむをえず 2021 年度に延期した。それに対応して、国内でのアンケート調査を前倒しして 2020 年度に実施し、その中間的な成果を以下の英文と和文のあわせて３本の論文と３件の学会発表によって公表した。最終年度の 2022 年度には、予定していた現地インタビューをオンライン形式によるものに変更し、量的研究で得られた知見を質的研究による検証を行った。具体的には,欧州日本人医師会の協力のもとで、欧州で働く日本人女性医師、または女性研修医、計 10 名を対象に研究者 3 名による ZOOM での 1 人あたり 1 時間程度の聞き取り調査であった。本研究の結果、得られた音声データは、テキストデータとして報告書としてまとめ、論文１

本,口頭発表２件として公表した。さらに、このデータに対して修正版グラウンデット・セオリーアプローチ（M-GTA）で分析を行い、論文投稿を予定している。

４．研究成果

研究の結果、欧州での病院組織の人的資源管理マネジメントの分析枠踏みとして、インテグラル理論の４つの象限に整理できると考えられる。すなわち、第１象限として主観的な価値である人生とキャリアは、 医者になりたかった医師、学費は無料で世襲制でない、お互いに人生を楽しむ権利を尊重する、競争より共同しプライベートが優先、組織（医局）に依存しない自律的な選択、多様なキャリアコースと豊富なキャリアモデル、総合診療専門医資格と適正化配置、高まる女性医師の人気と割合、勤務医志向と地域・診療科の偏在、第２象限として、人間主観的な文化である組織と帰属意識である協力して定時に帰る強いモチベーション、研修医も労働者で教育を受ける権利保護、過剰でメリットのないサービスの削減、チーム主治医制による現場改善と質の管理、病院医師のドライな患者との関係、家庭医の充実と病診療の役割分化、当たり前の男性の育児休業、グループ診療やシフトによる長期バカンス、ナニーやオペアの雇用、EU 他国から移住で医師数を確保、第３象限として客観的な収入の職務と報酬である、ベルトコンベヤー式専門分業による病院医療、職務一律賃金によるパート化と非金銭的動機付け、上司が関与せず自分で人事と個別交渉する給与、仕事が早いことが重視される職務能力評価、臨床と研究は分離し、研究は個人の自由、看護師不足で進まないタスクシフト、事務業務の削減、外注と IT システム活用、プライベートな自由診療で稼ぐバイト医師、第４象限として,間客観的な社会の法制と雇用である、 全国医師労働組合による団体交渉、契約に基づく公務員的労働、労働時間による正規と非正規の処遇格差撤廃、手厚い育児、介護・疾病休業手当、フェアな人事評価の組合せの病院組織、かぎっ子禁止制度と利用しやすい突然の病欠制度、出し入れ自由な残業貯金など多様な勤務形態、管理職への超過勤務ペナルティによる外圧、地域開業制限とかかりつけ医強化、増患・増収より時間当りの生産性重視の公的経営があり、欧州では第１象限が強く制度普及に影響していると考えられるが、日本では、第４象限からの拡充が適すると結論づけた。

（論文）米本倉基,村田幸則,坂田裕介,山上潤一,加藤憲, 看護組織におけるティール進化の妥当性－現状と期待の業態比較から－, 日本医療マネジメント学会雑誌,Vol.21,No4,pp.234-240,2021,査読有

（論文）・Kuramoto YONEMOTO ,Junichi YAMAGAMI ,Yukinori MURATA,Yusuke SAKATA , and Ken KATO, Impact of Reforming Doctors’ Ways of Working in Clinical Settings -Doctors’ Expectations and Prospects for Increased Patient Satisfaction- , Journal of Applied Medical Secretary,Vol.11,pp.1‐9,2021,査読有

（論文）・坂田裕介,村田幸則,服部しのぶ,米本倉基,働き方改革による管理職の過重労働の現状　－看護管理職への実態調査より－,日本ビジネス実務論集№38．35-41,2020,査読有

（口頭発表） 坂田裕介,村田幸則,服部しのぶ,米本倉基,働き方改革による看護管理職の過重労働の検証,日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会,愛知,2019
（論文）・米本倉基.特集.医師の偏在と働き方改革－女性医師の就労に焦点をあてて－「女性医師の現状を諸外国との比較で見る」，大阪保険医雑誌 2019.7，pp.12-15
（口頭発表）米本倉基,海外に学ぶ女性医師の働き方改革，静岡県女性医師支援研究会,2022
（口頭発表）米本倉基,欧州の日本人医師に学ぶ医師のワーク・ライフ・バランス,全国ダイバーシティネットワーク東海北陸ブロック,2021
（口頭発表）・山上潤一、米本倉基他、医療組織における安全文化を醸成させる因子の検討、日本医療マネジメント学会，愛知，2019
（口頭発表）・米本倉基,オランダに学ぶ医療スタッフの働き方‐現地インタビュー調査から‐,名古屋医療マネジメント研究会,講演,愛知,2019

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Kuramoto YONEMOTO ,Junichi YAMAGAMI ,Yukinori MURATA,Yusuke SAKATA , and Ken KATO	４．巻 11
２．論文標題 Impact of Reforming Doctors’ Ways of Working in Clinical Settings -Doctors’ Expectations and Prospects for Increased Patient Satisfaction-	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Applied Medical Secretary	６．最初と最後の頁 1－9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 坂田裕介,村田幸則,服部しのぶ,米本倉基	４．巻 38
２．論文標題 働き方改革による管理職の過重労働の現状　－看護管理職への実態調査より－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ビジネス実務論集	６．最初と最後の頁 35－41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 米本倉基	４．巻 7月号
２．論文標題 医師の偏在と働き方改革－女性医師の就労に焦点をあてて－「女性医師の現状を諸外国との比較で見る」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大阪保険医雑誌	６．最初と最後の頁 12‐15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 米本倉基,村田幸則,坂田裕介,山上潤一,加藤憲	４．巻 Vol.21,No4
２．論文標題 看護組織におけるティール進化の妥当性－現状と期待の業態比較から－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本医療マネジメント学会雑誌	６．最初と最後の頁 234-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 坂田裕介,村田幸則,服部しのぶ,米本倉基
２．発表標題 働き方改革による看護管理職の過重労働の検証,
３．学会等名 日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 米本倉基、坂田裕介、山上潤一
２．発表標題 医師の働き方改革に関する見通し－期待効果とヒューマンエラー、患者満足度への影響
３．学会等名 藤田医学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 山上潤一、安田あゆ子、宮下照美、米本倉基、坂田裕介、加藤憲
２．発表標題 医療組織における安全文化を醸成させる因子の検討
３．学会等名 日本医療マネジメント学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 米本倉基,
２．発表標題 海外に学ぶ女性医師の働き方改革
３．学会等名 静岡県女性医師支援研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 米本倉基
２．発表標題 欧州の日本人医師に学ぶ医師のワーク・ライフ・バランス，
３．学会等名 全国ダイバーシティネットワーク東海北陸ブロック（招待講演）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	坂田　裕介 (Sakata Yuusuke) (10748560)	藤田医科大学・医療科学部・助教 (33916)	
研究分担者	真野　俊樹 (Mano Toshiki) (20327886)	中央大学・戦略経営研究科・教授 (32641)	
研究分担者	久保　真人 (Kubo Makoto) (70205128)	同志社大学・政策学部・教授 (34310)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関